

## 城下町と観光 44 (岩手県・盛岡城)

「盛りさかえる岡」、南部氏の居城  
城下の裁判所の庭には石割桜

ジャーナリスト 長宗我部 友親

盛岡の町は、岩手山を北西に望んで、丘陵に囲まれた形の盆地の中にある。そこに盛岡城はそびえていた。JRの盛岡駅を降りて、海運橋の下を流れる北上川を眺めながら進むと、盛岡城址に行き着く。盛岡城を取り巻くようにある現在の亀ヶ池、鶴ヶ池などはかつての内堀の跡である。また、裁判所前の庭には、大きな岩を割って伸び、毎年見事な花を咲かせる石割桜がある。

盛岡城は、慶長2年(1597年)に着工され、慶長8年(1603年)には、形が整ったといわれる。しかし、その後何度も水害に見舞われていて、盛岡城が南部氏の居城として落ち着くには40年ほどの月日がかかり重直(しげなお)の時代になるといわれる。

町の呼称が「不方来(こずかた)」から「盛りさかえる岡」である「盛岡」に代わったのは慶長8年のころとされている。

## NEW SPOT in Japan 50

### 北海道博物館

半世紀にわたり親しまれた札幌の北海道開拓記念館(1971年開館)が衣替えし北海道博物館として4月オープンした。「開拓」を掲げた博物館は和人目線のイメージもあることから、道立アイヌ民族文化センター(94年開所)の組織・成果も博物館に統合し開拓以前の歴史やアイヌ文化の展示充実を図った。館内1、2階に資料2千点を5つのテーマに分け展示し、入り口にかつて北から来たマンモスゾウと南から渡ったナウマンゾウの巨大な骨格標本を対照し生物・文化が行き来する北海道の姿を示した。

第1テーマ「北海道120万年物語」でクジラやセイウチの仲間など道内で発見された古代の化石を並べ歴史を遡り、第2テーマ「アイヌ文化の世界」で開拓以前の和人との交易や戦いの傷跡、暮らしの道具、信仰、物語などを解説する。伝承の歌を聞いたり楽器を弾いたりするコーナーもある。第3第4テーマで北に伝わる名産品や厳しい冬を過ごす工夫などを紹介。第5テーマの「生き物たちの北海道」で自然の光景をパノラマふうに再現しクマやシカの生態などを展示。サケのぬいぐるみやシャチの形をしたソファ



白老にあった昔の家屋の復元と丸木舟の展示

も並び子供が手に触れて学ぶ楽しい演出をする。充実した展示に精力を傾けた結果か、ミュージアムショップが小さすぎて残念!!

サービス向上や収支に貢献するよう最近の美術館・博物館は豊富な来館記念グッズや書籍、DVDなどに力を注ぐのだが。観覧後の余韻を楽しむゆったりしたカフェテラスなども欲しい。隣接する北海道開拓の村や2020年開設予定の白老・国立アイヌ文化博物館(仮称)などとともに観光誘致に一層の工夫を期待したい。

(文・写真 林 莊祐)

南部氏は、八幡太郎義家の弟の新羅三郎義光の五世にあたる加賀美遠光の三男であった光行(みつゆき)が藩祖とされ、その歴史は古い。光行は甲斐国巨摩郡南部郷に住み、南部と称したという。光行は源頼朝に従って、奥州平泉の藤原泰衡討伐軍に加わり、軍功を立てて三戸に移住、この地に住むようになったとされる。

秀吉の時代には、南部信直(なんぶ・のぶなお)が、小田原の陣に参戦し、陸奥国の所領を安堵され、盛岡藩の基礎を築いた。

信直が、没した後、その子の利直(としなお)が関ヶ原の戦いで、徳川家康につき盛岡藩は南部氏による統治が継続されることとなる。利直は寛永9年(1632年)に没し、その後を重直が継ぎ、この時代に盛岡城は完成したとみられる。しかし、重直は気性が激しく、重臣の意見を無視して、家臣の名簿上に墨で線を引き、家臣の解雇を行った。このことが「墨引き人数」と言われ恐れられた。

旧城下の寺院地区の大慈町にある大慈寺の山門のあたりには盛岡出身の「平民宰相」とよばれた原敬の墓があり、墓碑には西園寺公望による「原敬墓」の文字が刻まれている。



石割桜



盛岡城の石垣

## 都立高校アドバイザー

元日本航空副社長 横山 善太

### 1 「経営企画室」

10年ほど前に、仕事は第一線から退くこととなり、専ら顧問の役割と対外活動の一つとして経済同友会の会合出席ぐらいとなりました頃、知人が東京都教育委員会依頼の仕事を紹介してきました。都立高校の学校現場と、教育委員会の間に、学校支援センターを配し、学校現場の支援を強化する為都立高校270校を支援センターで括り、民間経営者にアドバイザーとして指導する役割をお願いしたいとのことでした。

最初に或る高等学校を訪れた時のことでした。驚いたのは「学校原風景」と思っていた「校長室」「事務室」「職員室」の白抜き黒名札が、「事務室」無くそこには「経営企画室」があるのです。その後判ったことなのですが、全ての高校で今や「経営企画室」が中心的役割にあるのです。「学校改革」(主として2000年代以降)の象徴的存在となりました。

(1)事務室を格上げし、事務業務(物品調達、給与計算等)をセンターに集約効率化し、(2)業務の重点を、校長

の官房役を果たす為の職員会議に代わる企画調整会議(進路指導、学年主任等主な教員で構成)取り纏め焼くとし、校長のリーダーシップを図ることにしたのです。

そして学校運営に当っては、学校はただ運営するのではなく、「経営」するのだと云う意識改革をおこなうことが教員の日教組からの脱却をより促進させることになる。したがって「経営企画室」を配し民間会社型組織とすることになったのです。

学校運営は、事業会社の経営より難しいと思っています。民間会社の利益増大目標は、経営トップと現場工員が共有できる目標です。一方学校では、校長と一般教員は同一資格であり、学校の目標が良質な人材育成であるとしても、その内容、価値判断は一様ではなく物量化は難しい。従って民間経営になぞらえるには無理があります。

民間経営者の中に、学校教育に高い見識のある人は居るでしょう。然しから云って民間経営が学校運営に役立つとは思いません。「競争社会」は社会システムの一手法との認識が必要ではないでしょうか、と思っています。

次回は「ヒエラルキー(独語)」と「文鎮型組織」を学校組織との関係で取り上げたいと思います。

## 観光立国セミナー

第110回(4月10日)  
～海事センター～

### 「個人航空旅行の最前線」

トラベルライター 橋賀 秀紀

「インターネットの登場で旅のスタイルが根本的に変化した」と話す橋賀さんは①旅行前の準備段階の安い価格航空運賃の検索や予約、お得な情報②旅行中に必要な座席情報や取得マイレージ情報③ホテルに関する空き室や価格情報、クチコミの評判④格安レンタカーの探し方⑤最新観光情報取得サイトなど分野別に、実際のサイトの画面を表示しながら、実例も交えて詳しく説明された。インターネットを上手に利用すれば、旅行会社や旅行雑誌を利用しなくとも、格安な旅行を楽しむ事が出来る。橋賀さんは、ネットを活用すればプロに近い情報が取得できるが、反面、日々変わる情報をこまめにチェックする必要があり、中には英文のみのサイトもあり、検索に掛かる膨大な時間とコストを考えるとすべての人が、このような方法で旅行するにはまだ時間が掛かるだろうと述べられている。

### 予告

第111回は6月26日(金)正午～、麹町・海事センターで、講師にロンドン在住の俳優・映画監督 梶岡潤一氏を招いて、映画「インパール作戦について」。第112回は7月10日(金)正午～、講師北村嵩氏による「旅行業者の歴史」※これまでの講演内容は印刷して事務局に保管しています

## 新刊本紹介



日本の新しい観光のあり方を次々と提案している須田 寛 JR 東海相談役の新刊「都市観光—まちの観光」が発行された。

既に発行されている、産業文化財は観光資源と説いた「産業観光」。街道(みち)を観光対象とすることにより、地域全体の観光への魅力が再発見されると説いた「街道観光」。「産業観光」「街道観光」「都市観光」は観光3部作として教科書にもなりうる書である。本紙では須田氏が連載を続けているが、今号からは新しいまちづくり「都市観光」を連載、その意義などを詳しく説きます。「都市観光」は今年4月交通新聞社から発刊、245ページで貴重なデータも満載です。税別1,500円。

須田 寛：プロフィール

京都大学法学部卒業後、昭和29年日本国有鉄道入社。国鉄名古屋鉄道管理局、本社旅客局長、常務理事などを経て、昭和62年東海旅客鉄道(株)代表取締役社長に就任。その後代表取締役会長を経て平成16年から相談役。また、日本観光協会全国産業観光推進協議会副会長ならびに同協会中部支部長。

### 都市観光 まちの観光

須田 寛



交通新聞社